

## ■研究ノート

# タイ王国「国家教育法」制定前の幼児教育の内容の検討

## —『仏歴 2540（1997）年 就学前教育カリキュラム』を中心に—

高橋 順子

### 1 はじめに

世界の各国において、1990年代の終わり頃から幼児教育・保育の改革が行われ<sup>1</sup>、その後、20年あまりが経つ中で、幼児教育・保育の質についての議論もなされている。幼児教育・保育の質の向上を目指す国の一つに、タイ王国もあげることができる。なぜならば、1990年頃から、幼児教育・保育（就学前教育）に関する資料を策定し、幼児教育・保育実践に臨もうとする様子があらわれている国だからである。さらに、タイ王国では1999年に初めての「国家教育法」が制定され、初等・中等教育のみならず幼児教育・保育の改革も行われた。

幼児教育・保育の質は、どのような枠組みで考えていくのだろうか。厚生労働省子ども家庭局保育課からの委託研究「保育に関する基本的な考え方や捉え方・示し方に関する調査研究事業」の報告書（シード・プランニング 2019）では、各国の質評価をめぐる状況に関する整理・考察の枠組みを図1のように示している<sup>2</sup>。図1の中で、国としてのカリキュラム等の示す保育の基本的な考え方ということが示されていたので、本研究では、カリキュラムの着目することにする。

秋田（2022）は、保育の質とは何か、そしてどのように各自治体や園が質の向上に努めているのかを、子どもや保護者、地域に対して見える化し、その捉えや状況をモニタリングしながら子どもの健やかな育ちを保障していくことが求められている。質をとらえることは一般的に「質の評価・モニタリング」という言葉で呼ばれるが、これは現在、世界の多くの国にとって重要な課題となっている。しかし、それぞれの国によって制度も、置かれた社会性の文脈や状況も異なってくる。したがって、ユニバーサルに保育の質は決められるものでなく、社会文化によって異なるものであるということもまた、現在、専門家の間では国際共通の知見となっている<sup>3</sup>。と、保育の質について述べている。

1990年前後のタイ王国の幼児教育・保育の研究については、村田（1983）の研究が、日本におけるタイ王国の幼児教育の研究のはじめての報告であった。文献や調査報告などのデータからの報告が主で、この研究から、1932年頃から1978年頃のタイ王国の幼児教育の政策の流れとこの時期の教職員の資格について知ることができる。野津（1991, 1992, 1993a, 1993b, 1994, 1996）の研究は、タイの伝統的子ども観、タイ幼児教育の仏教的性格、文化伝達など幼児をとりまく教師、親に焦点をあてている<sup>4 5 6 7 8 9</sup>。

タイ王国のカリキュラムの研究については、SUREEPAN IEMAMNUAY（2019）の研究は、2003年幼児教育カリキュラム実施する際に、タイの文化やアイデンティティを幼児がどのように学んでいるかを調査した。調査内容は、幼児の「タイらしさ」育成に焦点をあてたものである<sup>10</sup>。

先行研究では、タイ王国の幼児教育・保育の実態をとらえることにとどまり、タイ王国の幼児教

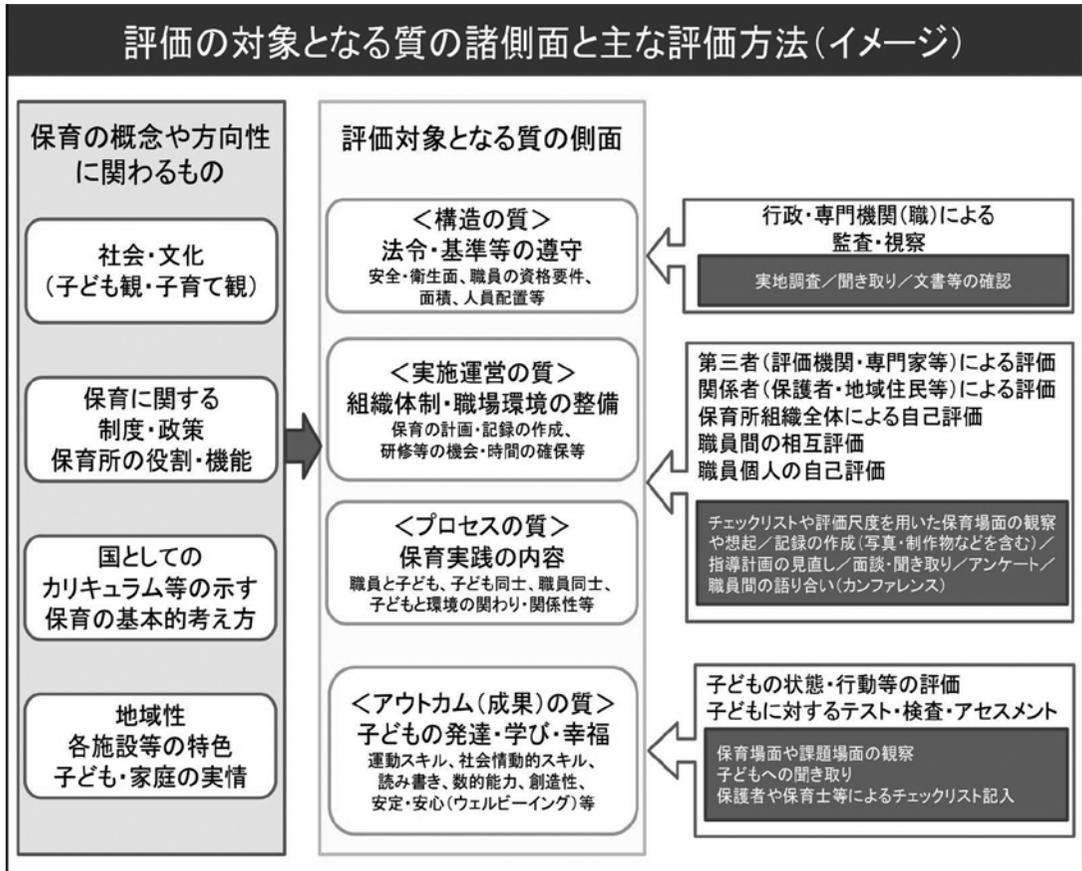


図1 質評価の枠組み

出典：諸外国における保育の質の捉え方・示し方に関する研究会  
 (保育の質に関する基本的な考え方や具体的な捉え方・示し方に関する調査研究事業) 報告書  
 平成31年3月29日 株式会社 シード・プランニング, 2019. p.9 より引用

育・保育の全体をとらえるカリキュラムに関する研究や継続的な研究は行われていない。

そこで本研究は、タイ王国の幼児教育・保育のカリキュラムの内容を継続的、詳細にみることで、幼児教育・保育の質の向上の手掛かりを得る研究となると考える。タイ王国の教育の大きい転換期は、1999年に初めての「国家教育法」<sup>11</sup>が制定ではあるが、制定以前のタイ王国の幼児教育・保育(就学前教育)の内容を継続的に知ることは、今日までのタイの幼児教育・保育(就学前教育)への理解へとつながると考える。したがって、カリキュラムの誕生までの道のりを知り、誕生したタイ王国の幼児教育・保育(就学前教育)カリキュラムから、どのような幼児教育・保育(就学前教育)を目指したのかを探ることを目的とする。

方法は、タイ王国の幼児教育・保育(就学前教育)カリキュラムが策定される前後の資料を概観し、カリキュラムが策定される前から策定後のカリキュラムの内容(3～6歳児)に着目し、カリキュラムが策定される前後の変化から、タイ王国の幼児教育・保育(就学前教育)カリキュラムの構造を明らかにする。

## 2 タイ王国の幼児教育・保育（就学前教育）カリキュラムの誕生までの内容の変化

### 2-1 戦後から 1990 年代までの社会的な背景

タイ王国は、国家領域に居住する多様で異質な集団であり、タイという国家の正当性を学問的に説明する必要があった。タイ王国の内部からの教育改革は、5世王チュラーロンコーン（1873年11月16日即位式）の熱心な取り組み、開発独裁などの影響から、タイ語の普及、宗教・道徳教育の確立、ラック・タイ（民族、宗教、国王）を強調する国民統合政策において基本的に同化政策がとられてきた。学校や官庁には、必ず、国旗、仏像祭壇、国王肖像の3点セットが備えられている。ラック・タイ（民族、宗教、国王）を強調する国民統合政策は、国策であるが、人々の心のよりどころでもあり、生活の中にも浸透している。そして、タイ人は、家族を大切に生活をしている。

戦後から 1990 年代までの主な教育改革は、1960 年、1977 年、1992 年に公布された 3 つの国家教育計画である。いずれも、当時の国家経済社会開発計画の影響を受けている。

一方、タイ王国において、教育に大きな変革が起きていたと同じ時期に、外部の観点からも世界で子どもを取り巻く環境の変化も起きている。例えば、1989 年、第 44 回国連総会において採択され 1990 年に発効した「子どもの権利条約」へ、タイ王国は 1992 年 3 月 27 日に加入をしている。条約に批准、加入、あるいは継承している国のことで、条約の実行と進捗状況報告の義務がある。批准国は条約を国会で審議、承認し国際的に宣言した国であり、加入国は、署名の工程を省きそのまま条約を受け入れた国である。批准国と加入国との違いがあるものの、国連の動きに対応している。1990 年の「万人のための教育世界宣言」（ジョムティエン宣言）から、就学前の幼児に関する国際協力の重要性が認識されるようになってきている。

### 2-2 仏歴 2540（1997）年 就学前教育カリキュラムが適用される前後の幼児数の変化

仏歴 2540（1997）年 就学前教育カリキュラムが適用される前後の幼児数（3～5 歳児）の変化は、表 1 に示すとおりである。幼児発達センターとは、2 歳児から 5 歳児までを対象とした子育て、経験、発達促進を提供する教育施設である。幼児学級とは、小学校内に幼児教育施設を設置した教育施設である。

表 1 仏歴 2540（1997）年 就学前教育カリキュラムが適用される前後の幼児数の変化

教育施設	学年度	1995	1996	1997	1998	1999
合計	(人)	2,361,570	2,522,478	2,906,701	2,987,486	2,416,718
幼児発達センター		441,844	491,192	570,738	582,004	259,621
幼児学級		163,594	109,694	70,824	18,465	6,012
幼稚園	小計	1,756,132	1,921,592	2,265,139	2,387,017	2,151,085
	幼稚園 1	178,783	181,691	446,186	486,821	269,924
	幼稚園 2	815,711	881,520	897,831	938,694	936,436
	幼稚園 3	761,638	858,381	921,122	961,502	944,725

※基礎教育レベルの教育統計 1993 年から 2002 年の学年度<sup>12</sup>より筆者が翻訳し一部抜粋して作成

表1から、1995年度から1998年度にかけて、幼児数は増加した。表1のすべての学年度において、幼児数が最も多い幼児教育施設は幼稚園である。その他、幼児発達センターは1995年度から1998年度にかけて増加傾向にある。一方、幼児学級は減少傾向にある。

### 2-3 戦後から1990年代までの幼児教育・保育（就学前教育）に関する資料

1960年、1977年、1992年に公布された3つの国家教育計画の中で、幼児教育・保育（就学前教育）に関して策定された資料は表2に示すとおりである。現在時点で、1960年に公布された国家教育計画のもとに、幼児教育・保育（就学前教育）に関して策定された資料は存在しなかった。

**表2 国家教育計画と幼児教育・保育（就学前教育）カリキュラムなどの資料**

国家教育計画	幼児教育・保育（就学前教育）カリキュラムなどの資料
1960	なし
1977	① 教育省国家初等教育委員会事務局『幼稚園第一学年用経験準備計画』1989年 ② 教育省国家初等教育委員会事務局『幼稚園第二学年用経験準備計画』1989年 ③ 教育省国家初等教育委員会事務局『就学前教育段階における幼児学級の経験提供ガイドライン』1991年 ④ 教育省国家初等教育委員会事務局『就学前教育段階における経験実施計画 幼児学級 第2冊』1991年
1992	① 教育省学術局『仏歴2540（1997）年就学前教育カリキュラム』1997年 ② 教育省学術局『仏歴2540（1997）年就学前教育カリキュラム』（3歳から6歳児用）・ハンドブック』1998年 ③ 教育省国家初等教育委員会事務局『就学前教育段階における子どもの発達評価ハンドブック』1998年

※整理をするために資料の前に、策定された順に番号を筆者が記入した。

表2から、1977年国家教育計画の下で策定された資料では、1989年の資料は幼稚園の経験という視点で作成された。1991年の作成では就学前教育という言葉が出現している。1992年国家教育計画の下で策定された資料では、就学前教育の言葉に揃えられている。幼稚園の経験から就学前教育の流れができたことが推測できる。

### 2-4 1977年～1997年の20年間の幼児教育・保育（就学前教育）に関する資料の目次

#### (1) 1977年国家教育計画の時の資料の目次

##### ① 教育省国家初等教育委員会事務局『幼稚園第一学年用経験準備計画』1989年の目次<sup>13</sup>

経験プラン

毎日の活動スケジュール

経験プランパート1

毎日のアクティビティスケジュールに表示されるアクティビティの使用に関する推奨事項

1. 動きとリズム
2. 創造的なアクティビティパート
3. コーナープレイ
4. サークルでのアクティビティ
5. 屋外プレイ
6. 教育ゲームパート

毎日の活動スケジュールに表示されない活動

1. 物語
2. 歌
3. 韻

活動を補足するための教育メディア - 経験計画、教育ユニット

オリエンテーション、私たちの学校、私たち自身、果物、大雨、仏教、私の最愛の家  
食べて美しくなる、陛下の女王シリキット、美しい蝶、新鮮で清潔な野菜、輸送、福祉

② 教育省国家初等教育委員会事務局 『幼稚園第二学年用経験準備計画』 1989年の目次<sup>14</sup>

経験プランパート2

愛する国、水生動物、小鳥、タイの旗、便利な食べ物、プミボン王アドゥリヤデー装飾、植物、  
私は冬が大好き、明けましておめでとう、昼と夜、子どもの日、教師の日、マカブチャの日、  
夏のベサックの日

③ 教育省国家初等教育委員会事務局 『就学前教育段階における幼児学級の経験提供ガイドライン』 1991年の目次<sup>15</sup>

出生から1歳までの子育て

出生から3歳までの子育て

出生から3歳までの子育てのガイドライン

1～5歳の子どもの経験を整理するためのガイドライン

1～1歳の子どもの発達目標に関する説明5年、内容の構造

1～5歳の子ども向けの活動

④ 教育省国家初等教育委員会事務局 『就学前教育段階における経験実施計画 幼児学級 第2冊』 1991年の目次<sup>16</sup>

1冊目

幼児向け経験プランの使い方の説明

パート1、経験プランの詳細

0.1 毎日の活動スケジュールに現れる活動

1.1 動きとリズム

1.2 創造的活動（芸術教育）

1.3 コーナーで遊ぶ

1.4 コーナーでの活動サークル

1.5 野外遊び

1.6 教育ゲーム

2. 毎日の活動スケジュールに表示されない活動

2.1 ストーリーテリング

2.2 歌

2.3 リズムの言葉

2.4 学習（子どもを落ち着かせ、子どもを保つ）

2.5 子どもへの質問の使用

2.6 メディアと機器子どもの社会性の習慣の発達に向けた教師の役割活動で使用されます、  
パート2、幼児の最初の週の経験計画

2.1 オリエンテーション

2. 2 私たちの教室 私たちの学校

3. 福祉教育

親愛なる木、果物、母の日、水、雨、親愛なる家、素敵な家、幸福

2冊目

パート2 幼児向け経験プラン

美しい蝶、米、小鳥、美しい森、陸生動物、ペット、水生動物、父の日、観賞植物、私、  
明けましておめでとう、私たちのコミュニティ、こどもの日先生の日知っておくべき人、  
ショッピング、交通機関、親愛なる土地、天気、昼と夜、エネルギー、夏、知っておくべき科学、  
親愛なるタイ

(2) 1992年国家教育計画の時の資料の目次

⑤ 教育省学術局『仏歴2540(1997)年 就学前教育カリキュラム』1997年の目次<sup>17</sup>

就学前教育カリキュラム 仏歴2540(1997)年の実施に関する教育省令第574号/2540号

就学前教育の理念

カリキュラムの内容 新生児～1歳(1～17ページ)

原則/目標/養育/活動指針/評価

カリキュラム 1歳～3歳(19～27ページ)

原則/目標/育成/活動指針/評価

カリキュラム 3～6歳(29～46ページ)

原則/目標/年齢別の目標/学習期間/就学前の学習経験のガイドライン/内容/

日常活動のスケジュール/評価

⑥ 教育省学術局『仏歴2540(1997)年 就学前教育カリキュラム(3歳から6歳児用)・  
ハンドブック』1998年の目次<sup>18</sup>

はじめに

1 初等教育前教育管理の基礎

第1章初等教育前教育管理の概念と原則

第2章初等教育前カリキュラムの本質

2 初等教育前カリキュラムの使用

第1章日常活動とスケジュールの整理

第2章メディア子どもの発達のために

第3章子どもの発達の評価

第4章経験計画の作成

第5章環境の整理

第6章就学前の教師の役割

3 活動のテクニック

第1章子どもを落ち着かせ、活動を変えるためのテクニック

第2章言語経験のテクニック

第3章書誌的質問を使用するためのテクニック

## ⑦ 教育省国家初等教育委員会事務局 『就学前教育段階における子どもの発達評価ハンドブック』

1998年の目次<sup>19</sup>

はじめに

子どもの発達評価のための取扱説明書クラスの先生のコメントを書くための指示発達評価  
身体の発達、感情の発達、社会性の発達、認知的発達、

就学前準備測定および評価マニュアルを改善するためのワーキンググループを任命するための命  
令、就学前の準備の測定と評価のマニュアルを改善するためのワーキンググループのリスト

上記一連の目次から、1989年に作成された資料①②では、国王、仏教、自然、家族などタイ人の生活に身近な内容が取り入れられている。1991年に作成された資料③④では、出生から5歳児までについて触れられ、子どもの発達目標という言葉が出現している。1992年国家教育計画の下で策定された資料⑤⑥⑦では、就学前教育の理念、評価、環境という言葉が出現している。

## 2-5 タイ王国の幼児教育・保育（就学前教育）カリキュラムの誕生までの道のり

タイ王国の幼児教育・保育（就学前教育）カリキュラムが策定される前後の資料を概観すると、1977年に公布された国家教育計画のもとに策定された教育省国家初等教育委員会事務局『幼稚園第一学年用経験準備計画』1989年、教育省国家初等教育委員会事務局『幼稚園第二学年用経験準備計画』1989年、教育省国家初等教育委員会事務局『就学前教育段階における幼児学級の経験提供ガイドライン』1991年、教育省国家初等教育委員会事務局『就学前教育段階における経験実施計画 幼児学級 第2冊』1991年では、幼稚園における活動について取り上げる内容を具体的に示してある。資料の題名の通り、活動の計画でありカリキュラムという形にはなっていないように推測できる。

1992年に公布された国家教育計画のもとに策定された教育省学術局『仏歴2540（1997）年就学前教育カリキュラム』1997年、教育省学術局『仏歴2540（1997）年就学前教育カリキュラム（3歳から6歳児用）・ハンドブック』1998年、教育省国家初等教育委員会事務局『就学前教育段階における子どもの発達評価ハンドブック』1998年では、初めてのカリキュラムは、教育省学術局『仏歴2540（1997）年就学前教育カリキュラム』1997年であり、タイ王国の幼児教育・保育（就学前教育）カリキュラムの誕生と言える。さらに、これまでの経験計画に、就学前教育の理念、原則、目標、評価を加えて、幼児教育・保育（就学前教育）の内容の構造化を図った。また、教育省国家初等教育委員会事務局『就学前教育段階における子どもの発達評価ハンドブック』1998年が策定されたことから、子どもの発達と評価も加わり、強化した視点であると推測できる。

3 教育省学術局『仏歴2540（1997）年 就学前教育カリキュラム』1997年<sup>20</sup>の内容の検討

以下、項目ごとに一部を引用する。

## 3-1 教育省令

小学校入学前の教育方針として、教育計画 仏歴2535（1992年）では、子どもの発達に有益な教育・養育を行うことを定めていた。そのため、教育省は小学校入学前のカリキュラムを作成した。

その結果、仏歴 2534（1991 年）の省庁再編成法第 25 条により、教育省は小学校入学前のカリキュラムの使用を要請した。教育省は、この政令に添付されている就学前カリキュラム仏歴 2540（1997）年を、すべての機関の新生児から 6 歳児まで全員に使用することを要請した。学校や児童発達センターは、この就学前教育課程を使用し、子どもや地域の環境に適合させることができる。

實際上、就学前教育課程の実施は、仏歴 2541（1998）学年度に開始されるものとする

### 3-2 就学前教育の理念

就学前教育（仏歴 2540）の理念は、愛と温もりと理解を必要とし、身体の発達、感情の発達、社会性の発達、認知的な発達をバランスよく必要とする、誕生から 6 歳までの子どもたちの基本的ニーズを教育し育むことを目的とする。学習経験は、年齢、個人差、社会性の背景に応じた直接的で多様なものであり、家庭、学校、地域社会の協力によって、子どもたちが幸せに学び、生きることができるようにし、子どもたちを良き市民として育成する。

### 3-3 原則

1. 3 歳から 6 歳までのあらゆるタイプの子どもたちに教育管理を提供する。
2. 養護と教育を基本として、児童を育成する。
3. 年齢、成熟度、個人差に応じた遊びを通して、身体的、感情的、社会性、認知的な全人的発達を促す。
4. 子どもたちが質の高い幸せな人生を送れるような学習経験を提供する。
5. 就学前教育レベルの教育を管理する知識と能力を持つ人材によって、子どもを成長させる。
6. 家庭や地域社会の参加を通じて子どもを育成する。

### 3-4 目標

#### 目標

就学前教育カリキュラムは、3 歳から 6 歳の子どもたちが、望ましい特性を持ち、年齢にふさわしい教育を受けられるよう、次のようなことを目標としている。

#### 望ましい特性

1. 健康で、各年齢の基準を満たすように成長する。個人的な衛生習慣を身につける。
2. 大小の筋肉が発達し、協調性や器用さが増す。
3. 明るく、楽しく、自分に対しても他人に対しても積極的である。
4. 道徳心、倫理観、自己規律、責任感が芽生える
5. 各年齢の基準にふさわしい自助能力を持つ。
6. 立憲君主制のもとで、子どもたちが他人と仲良くし、民主主義社会のよき一員となる。
7. 自然、環境、文化に感謝し、タイ人であることに誇りを持っている。
8. 言語は、適切な年齢基準の中で、有意義なコミュニケーションのために使われる。
9. 子どもたちは、適切な年齢基準の中で考え、問題を解決する能力を持っている。学習に対して積極的である。
10. 想像力と創造的思考がある。

#### 年齢別の目標

### 3～4歳

#### 身体の発達

- 足を交互に使って階段を上る。
- 転ばずに走って止まることができる。
- 片手ではさみを使うことができる。
- 自由にお絵かきやぬりえができる。

#### 感情と社会性の発達

- 甘えてくれる人に満足する。
- 大人を喜ばせ、褒められるのが好き。
- 自分のことは自分でできる。
- 平行遊びができる。

#### 認知の発達

- 子どもの話や他人に興味を持つ。
- 好奇心旺盛。
- 常に“なぜ”尋ねる。
- 簡単な歌を歌い、ジェスチャーを真似ることができる。
- 長い文章を話す。

## 3-5 学習期間

学習者の年齢 3～6歳

### 学習期間

学習経験の提供には、養育・教育を開始する子どもの年齢にもよるがおよそ1～3学年度かかる。

## 3-6 就学前の学習経験のガイドライン

学習という目的を達成するために、経験を提供する際のガイドラインを以下に示す。

1. 子どもの発達のあらゆる側面を総合的に継続的に育む。
2. 発達心理学や子どもの学習感覚に沿った経験を提供する。
3. 子ども中心で、個人差に応じたニーズと配慮に応える。
4. 良い学習環境と温かい雰囲気を作り、子どもたちを幸せにする。
5. 発達のあらゆる側面に基づいた総合的な活動を提供する。
6. 観察、探求、遊び、探究、実験、問題解決を通して学ぶ機会を提供する。
7. 物や他の子ども、大人と触れ合う機会を提供する。
8. 子どもと教師、屋内外の活動、運動、心を落ち着かせる活動など、バランスの取れた学習活動を提供する。
9. 様々なタイプの遊びを提供する。自主的な遊び、少人数での協力的な遊び、大人数での遊び。
10. アウトプットよりもプロセスを重視し、子どもたちを成長させる。
11. 環境、地域文化に即した学習経験を提供し、日常生活に役立てる。
12. 自己責任、社会性の責任の自覚を養う活動を行う。自然や地域に感謝する。
13. 子ども自身が計画し、行動し、その結果を説明する。

14. 発達の過程と継続性を評価する。この評価を学習経験の一部とする。
15. 保護者や地域社会が子どもの発達に参加する機会を提供する。

### 3-7 内容

#### 5. 特別な日

- 我が家には、誕生日や家の功労賞の日などの特別な日がある。
- タイの重要な日には、建国記念日、宗教的な日、王政の重要な日などがある。また、多くの文化や伝統もあります。
- それぞれの特別な日には、さまざまな行事があります。
- それぞれの地域には、それぞれの特別な日があり、それぞれ違ったアクティビティがあります。

#### 6. 自然環境

- 私の周りには、生きているものと生きていないものがある。
- 私は生き物である。人間、植物、動物などすべての生き物は、空気、日光、水、食物を必要とする。
- 水、岩、土、砂など、身の回りにある非生物。水、石、土、砂など、身の回りの非生物には、さまざまな形、色、利益、害がある。
- 人間も、植物も、動物も、そして私も、天候や気温、季節に適応することができる。私たちはまた、お互いに依存している。
- 一日一日の天気は、同じであることもあれば、異なることもある。
- 空には様々な形の雲がある。雲から天気を予測できることもある。
- 日中とは、太陽が昇ってから沈むまでの時間である。私を含め、ほとんどの人は昼間に起きて仕事をし、遊び、学校に行く。
- 夜とは、太陽が沈んでから昇るまでの時間である。私を含め、ほとんどの人は夜に休む。
- タイには3つの季節がある。夏、雨季、冬である。

### 3-8 日常活動のスケジュール

3歳から6歳の子どもたちのためのアクティビティは、毎日のアクティビティスケジュールで様々な種類をアレンジすることができる。これは、教師と子どもたちが日常的な活動を学ぶのに役立ちます。活動の原則は以下の通りである。

1. 各年齢に適した活動を毎日行う時間を設定する。
2. 教室内外の活動のバランスを適切にとる。
3. 少人数や全体で考えることを中心とした活動は、20分以内とする。
4. プレイコーナーや外遊びなど、子どもたちが自由に選択できる活動。子どもたちは常に楽しみながら活動する。活動時間は40～60分程度。
5. 活動は、大きな筋肉と小さな筋肉のバランス、個人、小集団、全体、子ども主導と教師主導、落ち着きと動き。教師はこれらすべてを提供すべきである。子どもが疲れすぎないように、能動的な活動と受動的な活動を交互に行う。

### 3-9 評価

#### 子どもの発達の評価

3歳から6歳の子どもの発達を評価することは、身体の発達、感情の発達、社会性の発達、認知的な発達を評価することである。これは継続的なプロセスであり、子どもたちに毎日提供される活動の重要な一部です。アセスメントの結果は、子どもたち一人ひとりの発達の違いを判断し、適応させ、その発達を高めるための活動を計画するための資料となる。

子どもの発達の評価は、以下の原則に基づいて行われる：

1. 発達のすべての領域を評価する。
2. 学年を通じて継続的に個々の子どもを評価する。
3. 評価の背景は、子どもたちが日常的な活動をしている現実的な状況でなければならない。
4. 計画的にアセスメントを行い、アセスメントツールを選択し、記録する。
5. ペーパーテストや筆記試験は、3～6歳の子どもの発達には適していない。テストの点数ではなく、様々な情報に基づいて評価すべきである。3～6歳児に適した評価方法は、観察、会話、インタビュー、子どもの発達の各側面の可能性を示す課題や作品の記録である。子どもたちの情報を個々のファイルとして記録することもできる。

この資料からは、就学前教育（仏歴 2540）の理念に示されている「身体の発達、感情の発達、社会性の発達、認知的な発達をバランスよく必要とする」ということが、原則、目標、評価に明確に示されている。就学前の学習経験のガイドラインや内容については、目標を実現するための内容になっていると推測できる。

### 3-10 教育省学術局『仏歴 2540（1997）年 就学前教育カリキュラム』1997年の内容の特徴

『仏歴 2540（1997）年 就学前教育カリキュラム』1997年の内容の特徴は、これまでの活動計画に、就学前教育の理念、原則、目標、評価を加えて、幼児教育・保育（就学前教育）の内容の構造化を図ったことである。その構造は、表3に示すとおりである。就学前教育の理念には、身体、感情、社会性、認知的な発達を柱にした。目標及び年齢別に目標、経験の内容を示している。原則には、4. 子どもたちが質の高い幸せな人生を送れるような学習経験を提供する。と示され、ユニバーサルな視点も含まれている。一方、目標には、4. 道徳心、倫理観、自己規律、責任感が芽生える。6. 立憲君主制のもとで、子どもたちが他人と仲良くし、民主主義社会のよき一員となる。7. 自然、環境、文化に感謝し、タイ人であることに誇りを持っている。と示されていることから、タイ人としてのアイデンティティにつながる内容も含まれている。経験の内容については、これまでの経験計画を生かし、子どもの生活に即したものとラック・タイ（民族、宗教、国王）に関わる内容を含めて構成されている。評価については、就学前教育の理念に示した身体、感情、社会性、認知的な発達を柱として、子どもたち一人ひとりの発達の違いを判断し、適応させ、その発達を高めるための活動を計画するための資料となると示してあり、原則へと循環している。

## 4 まとめ

1990年前後のタイ王国は、1977年～1997年の20年間、幼児教育・保育のカリキュラムを策定し、

保育の質の確保、向上を目指していたと推測できる。

タイ王国の幼児教育・保育の特徴としては、子どもの発達をとらえる柱は、身体、感情、社会性、認知的な発達であり、経験の内容は子どもの発達や年齢に応じたもの、子どもの生活に関するものなどが含まれる。さらに、ラック・タイ（民族、宗教、国王）に関わる内容も含まれ、タイ人としてのアイデンティティをもち、国民としての育成も目指していることが特徴と考える。

1990年代タイ王国が幼児教育・保育（就学前教育）において目指していたことは、教育省令に示すように、小学校入学前の教育方針として、すべての新生児から6歳児の子どもの発達に有益な教育・養育を行うことを定めた。これは、1990年の「万人のための教育世界宣言」（ジヨムティエン宣言）から、就学前の幼児に関する国際協力の視点も取り入れていると推測する。

また、タイ人らしさと国際協力の視点の両面を取り入れるのもタイらしさの一つであると考えられる。

## 5 今後の課題

本研究では、経験準備計画とカリキュラムを中心に検討をしてきた。今後の課題は次の3点である。1点目は、1997年以降から今日までのカリキュラムの変化を明らかにし、幼児教育・保育の質の向上のために必要なことを探る。2点目は、これらのカリキュラムの実施のために、ハンドブックなどを手掛かりに、保育実践における質の確保や向上をどのようにしようとしているかを探る。3点目は、カリキュラムの自治体や園への普及やカリキュラム評価のあり方などの検討も必要であり、教育格差の視点も視野に入れ、タイ王国の幼児教育・保育の特徴や課題をさらに探っていく。

### 謝辞および付記

タイ語の翻訳にあたり、ご協力いただいた Nawawan Nitcharoj さんへ心より感謝申し上げます。

表3 『仏歴 2540 (1997) 年就学前教育カリキュラム』の構造

資料名	教育省国家初等教育委員会事務局『幼稚園第一学年用経験準備計画』1989年	教育省学術局『仏歴 2540 (1997) 年就学前教育カリキュラム』1997年
幼稚園経験準備計画及び就学前教育カリキュラムの構造		教育省令 (すべての新生児から6歳児の子ども)
		就学前教育の理念 (身体、感情、社会性、認知的な発達)
		原則 (全人的発達を促す)
		目標 (年齢別の目標)
	<p>毎日の活動スケジュール 経験プランパート1 毎日のアクティビティスケジュールに表示されるアクティビティの使用に関する推奨事項</p> <p>1. 動きとリズム 2. 創造的なアクティビティパート 3. コーナープレイ 4. サークルでのアクティビティ 5. 屋外プレイ 6. 教育ゲームパート</p> <p>毎日の活動スケジュールに表示されない活動</p> <p>1. 物語 2. 歌 3. 韻</p> <p>活動を補足するための教育メディア - 経験計画、教育ユニット オリエンテーション、私たちの学校、私たち自身、果物、大雨、仏教、私の最愛の家 食べて美しくなる、陛下の女王シリキット、美しい蝶、新鮮で清潔な野菜、輸送、福祉</p>	<p>就学前の学習経験のガイドライン 内容 (一部引用)</p> <p>5. 特別な日⇒タイの文化など - 我が家には、誕生日や家の功労賞の日などの特別な日がある。 - タイの重要な日には、建国記念日、宗教的な日、王政の重要な日などがある。また、多くの文化や伝統もあります。</p> <p>6. 自然環境⇒子どもの生活の環境 - 私の周りには、生きているものと生きていないものがある。 - 私は生き物である。人間、植物、動物などすべての生き物は、空気、日光、水、食物を必要とする。 - 水、岩、土、砂など、身の回りにある非生物。水、石、土、砂など、身の回りの非生物には、さまざまな形、色、利益、害がある。 - 人間も、植物も、動物も、そして私も、天候や気温、季節に適應することができる。私たちはまた、お互いに依存している。 - 一日一日の天気は、同じであることもあれば、異なることもある。</p>
		評価 (身体、感情、社会性、認知的な発達)

## 引用文献

- <sup>1</sup> 泉千勢・一見真理子・汐見稔幸編著『世界の幼児教育・保育改革と学力』明石書店、2008年
- <sup>2</sup> 株式会社 シード・プランニング 『諸外国における保育の質の捉え方・示し方に関する研究会（保育の質に関する基本的な考え方や具体的な捉え方・示し方に関する調査研究事業）報告書』2019 p.9 <https://www.mhlw.go.jp/content/11907000/000533050.pdf> 最終閲覧 2023/08/15
- <sup>3</sup> 秋田喜代美 2022「はじめに」秋田喜代美・古賀松香編著『世界の保育の質評価』明石書店、p.3
- <sup>4</sup> 野津 隆志 1991「タイ幼児教育の仏教的性格（その1）－幼稚園教師指導書の検討を中心に」『教育制度研究』第23号 筑波大学、71-86
- <sup>5</sup> 野津 隆志 1992「タイ幼児教育の仏教的性格（その2）－仏教行事・儀礼に関する実態調査より」『教育制度研究』第24号 筑波大学、29-42
- <sup>6</sup> 野津 隆志 1992a「タイの幼児教育と文化の構造－研究枠組み（課題、視点および方式）の検討」『教育制度研究』第25号 筑波大学、27-38
- <sup>7</sup> 野津 隆志 1992b「タイの伝統的子ども観－誕生期通過儀礼の分析を中心に」『埼玉短期大学研究紀要』第2号 埼玉短期大学、79-86
- <sup>8</sup> 野津 隆志 1994「タイ農村の幼児教育と文化伝達の構造－文化伝達に対する家庭と幼児教育施設の相互関係の検討」『比較教育学研究』第20号 日本比較教育学会、117-128
- <sup>9</sup> 野津 隆志 1996「タイ農村部における幼児発達と養育文化の変容」高倉翔編著『教育における公正と不公正』教育開発研究所、379-393
- <sup>10</sup> SUREEPAN IEMAMNUAY 2019 “EARLY CHILDHOOD CURRICULUM IN THAILAND: AN INVESTIGATION INTO PERCEPTIONS OF THE CULTIVATION OF THAINESS IN YOUNG CHILDREN” A thesis submitted to Victoria University of Wellington in fulfilment of the requirements for the degree of Doctor of Philosophy [Early childhood curriculum in Thailand: An investigation into perceptions of the cultivation of Thainess in young children \(wgtn.ac.nz\)](http://www.wgtn.ac.nz) 2024.02.14 最終閲覧
- <sup>11</sup> タイ教育省 1999年「国家教育法」1.-พระราชบัญญัติการศึกษาแห่งชาติ-พ.ศ.2542-ฉ.อ.พ.ดท.pdf (moe.go.th) 2022.08.15 最終閲覧
- <sup>12</sup> 基礎教育レベルの教育統計 1993年から2002年  
<[4D6963726F736F667420576F7264202D20CBB9E9D2BBA1A2D1E9B9BED7E9B9B0D2B933362D34352E646F63](https://www.onec.go.th)> (onec.go.th) 2022.07.16 最終閲覧
- <sup>13</sup> 教育省国家初等教育委員会事務局 1989年『幼稚園第一学年用経験準備計画』目次
- <sup>14</sup> 教育省国家初等教育委員会事務局 1989年『幼稚園第二学年用経験準備計画』目次
- <sup>15</sup> 教育省国家初等教育委員会事務局 1991年『就学前教育段階における幼児学級の経験提供ガイドライン』目次
- <sup>16</sup> 教育省国家初等教育委員会事務局 1991年『就学前教育段階における経験実施計画 幼児学級 第2冊』目次
- <sup>17</sup> 教育省学術局 1997年『仏歴2540（1997）年就学前教育カリキュラム』目次
- <sup>18</sup> 教育省学術局 1998年『仏歴2540（1997）年就学前教育カリキュラム』（3歳から6歳児用）・ハンドブック』目次

- <sup>19</sup> 教育省国家初等教育委員会事務局 『就学前教育段階における子どもの発達評価ハンドブック』 目次
- <sup>20</sup> 前掲書 1997年『仏歴2540(1997)年就学前教育カリキュラム』 教育省令 就学前教育の理念 29-46

## 参考文献

---

- 村田翼夫「タイにおける教育発展 国民統合・文化・教育協力」東信堂 2007年
- 綾部真雄編著「タイを知るための72章 第2版」明石書店 2014年
- 日本タイ学会編著「タイ事典」めこん 2009年

